

外部評価を踏まえた対応方針一覧

事務事業名		元気な十和田市づくり市民活動支援事業	集客力を高める食・農・自然観光の連携	担い手の育成・確保	新規高卒者の早期求人要請
担当課名		まちづくり支援課	観光推進課	農林畜産課	商工労政課
内部評価	事務事業の方向性	有効性を改善して継続	効率性を改善して継続	さらに重点化を図る	現状のまま継続
	方向性の理由	本事業への応募件数が年々増加しており、事業成果も見えてきていることから、市民と行政による協働のまちづくりを推進する重要な施策として、事業効果をより高めるために、制度の充実を図りながら継続して取り組んでいく。	平成27年度末を予定している北海道新幹線函館駅開業及び平成28年度に予定している青森ディスティネーションキャンペーンに向け、国・県の補助事業等を活用し、総合的かつ全庁的な体制で戦略的な観光資源の開発に努める。	平成24年12月の政権交代を期に総理大臣を本部長とする「農林水産業・地域の活力創造本部」を設置し、農業改革の本格検討に入る予定で、「攻めの農林水産業」を柱に「農業・農村の所得を10年で倍増させる」との目標を掲げており、政権交代以前の農業政策と大きく変わろうとしているところである。また、TPPへの参加表明による農業への影響が考えられるため、地域における将来の農業ビジョンや方向性について話し合ったことをプラン化することで人・農地の問題を解決しようとするものである。	地域の人材を流出させない方法として対高校生卒業者に関しての施策としては有効である。
	今後の具体的な取組方策と狙う効果	申請事業について、公益性、妥当性などの評価の公平性、透明性を高め、様々な視点から評価、検討するため、公開ヒアリングの実施、市民公募による評価検討委員制度の創設の検討、対象経費の見直し等に取組み、より一層、市の活性化につながるよう制度の充実を図っていく。	2年後を見据え、市の観光をけん引する食のトップコンテナツを開発するため、国又は県の補助事業を活用し、市（観光推進課・十和田産品販売戦略課等）、市観光協会、十和田湖国立公園協会、その他関係団体の総合企画による事業の実施を検討する。例：青森県総合販売戦略・食産業推進委員会	認定農業者及び集落営農組織等が中心経営体になり、また、各地域はその中心経営体へどうやって農地を集積するかなど、地域農業の在り方等を決めてもらい、話し合いの結果をもとに「十和田市人・農地プラン」を作成したところである。国の農業支援を円滑に受け入れる体制を整えたことで、人・農地の問題解決に向けて、農業後継者を確保・育成して力強い農業構造を実現し、十和田市の農業振興を押し進める。	ミスマッチを防ぐ手段として学生に対する職場研修など事前に職場をイメージできる職能教育が有効と考えられる。
外部評価	ご意見及び指摘事項	<p>【評価結果】</p> <p>現状のまま継続 2人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H23年度から始まった事業であり、全体像の評価の後に重点化等を考える。 ・市民活動を活性化させ、賑わいと、市民が輝くまちづくりを推進させていくために是非必要である。 <p>有効性を改善して継続 2人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・申請される事業が収益につながるものであれば、行政が手助けする。 ・自力効果を指導し、過保護による成長をとめる。正しく誘導する必要がある。 <p>公平性を改善して継続 2人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ団体が継続しないで、様々な団体に実施していただけるようにしてはどうでしょうか。 ・申請、報告をやりやすい方法で、事業内容の公平性は必要であるが、柔軟に。 <p>【その他ご意見・ご指摘事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この事業の報告会を生で見たが、みんな和気あいあいと雰囲気よく行われており、すごく良いなと感じた。 ・市民と行政との協働でのまちづくりを推進することで効率性が高く、コスト削減につながっている。 	<p>【評価結果】</p> <p>さらに重点化を図る 1人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食の開発に重点を置きすぎではないでしょうか。観光に来た方への「おもてなし」も考えながら行ったらいいと思います。 <p>現状のまま継続 1人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状のまま、さらに内容充実を図りながら本事業を推進させていく。 <p>有効性を改善して継続 4人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価が難しい事業であるが、複数の指標で有効性を測定し、改善に努める。 ・毎年の（同じ）行事としないひと工夫で、内容を充実させる。 ・全体的な答えはないが、ポイントを細部まで聞いて、小さなことから改善してほしい。 ・有効な資産の活用、広報活動の展開、顧客安定のための周回路的整備が必要である。 <p>【その他ご意見・ご指摘事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一度廃れたが復活した他地域の成功事例の研究や、視察を行うてはどうか。 ・女性は、オシャレなところには行くので、料理の工夫も、店の雰囲気も、オシャレな感じをどう作っていくかを考えていただきたい。 ・「長期滞在型の避暑地」又は「健康志向」というコンセプトでの観光メニュー開発を提案する。 	<p>【評価結果】</p> <p>現状のまま継続 2人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業の魅力（収益性・生産性）のPRと、事業対象者のフォローをしっかり行い、後継者育成に努める。 ・国の農業政策の一環であり、県・市と一連の施策の中で行われている事業でもあり、さらに積極的に推進していただきたい。 <p>有効性を改善して継続 4人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人・農地プラン」を検証、実行する。就農青年、予定者の確保や、生活、経済面で安心プランになれる方向性を提示する。カッコいい農業と、収入増の将来像の確証を提示する。 ・行政が指導してくださって、若い方々に参加していただく事業をしていただきたいと思います。 ・十和田市が良い作物が作れることも宣伝し、他県にも呼び掛ける。 ・国の事業のほかに、営農のさらなるPRをお願いします。 <p>【その他ご意見・ご指摘事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな規模でどんなバランスの作付をやれば農業で生計を立てていけるのか、例えば所得300万円を達成できるようなモデルケースを作って、若者たちに見せていただきたい。 ・思い切って、休耕田を使って3セク的に農業経営をやってみてはどうか。 ・この事業の成果の設定としては、給付農家数ではなく、給付金を出した農家の農業所得がその後どう成長しているかであると考えられるので、そこを追跡調査してほしい。 	<p>【評価結果】</p> <p>現状のまま継続 2人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管内希望者が100%就職できる環境の整備と継続をこの事業に望む。 ・景気の動向に大きく左右されると思われるが、市・商工会議所・企業等の密接な連携を図りながら、現状のまま継続してもらいたい。 <p>有効性を改善して継続 4人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミスマッチで離職した時の受け入れる対策を考えていただきたい。（職業能力開発させるとか） ・企業への求人要請は継続すべき。企業の良いところのPRを行い、早期求人に努める。学校教育現場は生徒への指導、市は十和田の良さのPR、広報活動が必要。 ・求人票を早く（6/20）出していただく。ミスマッチの部分はなぜやめたのか企業から聞き取り調査をし、今後に生かす。 ・現状（提出企業数・時期）を調査して、求人票提出・試験実施の早期化をお願いします。 <p>【その他ご意見・ご指摘事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管内企業が求人票をどれだけ出しているか、いつ頃出しているかの情報を、市で収集、整理してほしい。
		事務事業の方向性	有効性、公平性の改善に留意し、制度の充実を図りながら継続的に取り組んでいく	有効性を改善して継続	さらに重点化を図る
外部評価を踏まえた対応方針	取組内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 市民が輝くまちづくりの推進のため、制度の充実を図っていく。 2. 団体の自立に向けて誘導を図っていく。 3. 報告会の開催や広報等を通じて、様々な団体の利用促進を図っていく。 4. 市民への情報公開に努め、多くの客観的な評価の声を制度に反映し、公平性を維持していく。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 女性に喜ばれるエリア作りのため、オシャレな店や料理の提供に努めるとともに、ご提案の「長期滞在型の避暑地」「健康志向」をテーマとする観光メニューの開発のほか、「マチナカにおける現代アートの魅力強化」を目指す。 2. 誘客につながる情報発信の仕組み作りのため、観光情報ウェブサイト充実させる。 3. 二次交通の充実のため、津軽地域からの観光ルートを拡充させる。 4. チラシやポスターの新たな掲出場所の検討や駒らん情報メールによる直前告知により、まずは一番身近な顧客である市民の積極的なイベント参加を促す。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の担い手に対して、「十和田市人・農地プラン」への参加を働きかけ、機械導入及び青年就農支援などの国庫補助金を活用できるよう積極的に推進し、農業所得の向上を図る。 2. 中小規模農家及び水稲作付農家に対して、経営安定に向けた支援を行う。 3. 農地集積及び耕作放棄地の復元による経営規模の拡大が可能となるよう、個々の集落営農組織について法人化の推進を図るための研修会を開催する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次世代を担う若者の地元での安定した雇用機会を確保するために、商工会議所等関係団体と連携して、地元企業に対して採用枠の確保・拡大と求人票の早期提出を要請する。 2. ミスマッチを解消するために、企業や関係団体に対してインターンシップや職場見学会・企業説明会等の開催を働きかける。 3. 求人票のさらなる早期提出に向けた検討材料とするため、市内企業の求人票の提出件数並びに提出時期について情報収集する。